



セミナー

いのち

平成23年8月5日（金）開催

少子高齢化社会、核家族社会、近年では人と人とのつながりが希薄になり無縁社会ともいわれ、「いのち」についてあらためて考えさせられることが多い毎日です。

そんな中で、「いのちとは何なのか?」「生きるとはどういうことなのか?」、古来問われ続けてきた永遠の命題を、仏法の考え方を含めてわかりやすくお話をいただき、一人一人がいのちや生きる意味について、見つめ直し考える契機となりました。

深い内容を、静かな中に凜とした語り口の青山先生の講義は、わかりやすく心に響く言葉が多く2時間という時間が短く感じられ、心が洗われる充実した時間となりました。来年もお聞きしたいという声が多く寄せられました。
(講座参加者：71名)

<研修内容>

講義 「仏法の心と命の方向づけ」
講師 青山 俊董 無量寺東堂



受講者アンケートから

☆いのちの意味を真剣に考える貴重な時間でした。宇宙総がかりでいのちをいただいている。そのいのちをどう自覚しどう生かしていくのか、わかりやすいすばらしい講義でした。

☆日々忙しい生活に追われ、自分の生き方（あり方）を見つめなおすことがなかったので、お話をお聞きして見つめ考える契機となりました。

☆生かされているいのちということ、あらためて実感させていただきました。

☆苦しみ・悲しみがあなたを救っていく。苦しみ・悲しみを逃れては救われない、というお話に救われ勇気をいただきました。



生涯学習推進講座
地域とともに育つ子どもと若者
～参加から参画・協働・共汗へ～

平成23年8月30日（火）開催

講義と事例発表を通して、さまざまな体験活動が子どもの成長にどのように関わるかを学びました。

講義では、観察や実態調査に基づいて、子どもの今のあり方と背景について分析・考察がありました。とりわけ自分のやりたいことを人と相談して実現する力、失敗を恐れずに挑戦する心などの衰えが目立つとして、このことは年々減少している遊びの体験や子ども時代の失敗経験がいかに重要かを示しているのだとの指摘です。そこで必要なのは、学校や家庭で過ごす時間とは区別された自由な「放課後の時間」と、地域の「おじさん・おばさん」を含む豊かな人間関係であり、「生きる力」（体力・食べる力・人間関係を作る能力）はそこから伸びていくものであると話されました。

駒ヶ根市で「アルプスふれあいキャンプ」を続けてきた堀内さんは、「友達をたくさん作る力が生きる力だと思います。これがあれば将来どんなに辛いことがあっても大丈夫だと信じ」て、OBであるスタッフも育てつつ歩んできたと語り、受講者に感銘を与えました。

講義と事例発表を受けた情報交換では、何を子どもたちに学んでほしいか、その願いや思いについて熱心に話し合い、お互いに多くの収穫を得ることができました。（講座参加者 45名）

＜研修内容＞

講義 「子どもの育ちにとっての体験の重要性」

講師 明石 要一 千葉大学教育学部教授

事例発表 「アルプスふれあいキャンプ」

堀内 豊彦 長野県青少年育成県民会議 常任理事

情報交換



受講者アンケートから

☆明石先生のお話はデータがわかりやすくかみ砕かれ、重要な課題がいくつもあり、2時間では足りないと感じるほどでした。地域と子どもの関わり方について、たいへん参考になりました。

☆体験活動が子どもたちの自尊感情や意欲、人と関係を結んで頑張る力を育て、生きる力につながっていくのがよく理解できる講義でした。

☆子どもを育てるための活動にOBである青年たちが関わっている。そんな取り組みが県内にあることが嬉しいです。郷土の若者も同時に育っていることに共感しました。

☆皆さんと話し合い、関わっている活動が進む方向にヒントをいただけた情報交換になりました。ただの行事としてではなく、体験活動を通してどんな人になってほしいかという「根っこ」を忘れないでほしいです。



セミナー きらめきながら生きるために ～バリアフリーから バリアオーバー社会へ～

平成23年9月13日(火) 開催

このセミナーは、出張講座として千曲市更埴文化会館で行われました。

午前の講義では、「日本人は、もっと上手な驚き方、揺れ動き方を学ばなければならないのでは。「共震」共にゆれる、みんなで一緒に驚く、揺れ動く中からさらなる位置に成長できる」「バリアオーバーは共にゆれていく中でバリアがさらなる高みに導いてくれる」「違いを面白い方が楽しい。異質だから面白い、見てみようという気持ちになる。」等、バリアオーバーの新たな視点を話していただきました。

午後の演習は、2グループに分かれて2つの演習を行いました。演習1では、目隠しをして白杖を持つ人にもう一人がガイド役になって館内外を歩く体験をしました。演習2では、「街で視覚障害者に会ったら何と声をかけるか。」等の質問に、自由に意見交換をし合い、様々な意見に触れながら考え方の違いに気づく機会となりました。

講座の中では、堀越さんのリュートの演奏もあり、堀越さんのパワーと温かさが広がる講座となりました。
(講座参加者：49名)

＜研修内容＞

講義 「心の障壁を越えて～レッツバリアオーバー～」

講師 堀越 喜晴 明治大学兼任講師 立教大学兼任講師

演習 ガイドヘルプ活動の実際「helping and helped」

講師 堀越 喜晴 明治大学兼任講師 立教大学兼任講師

ボランティア 小宮 功 市村 君子 長野市こまくさの会



受講者アンケートから

☆話が具体的でよくわかりました。思い込みの親切でなく、個々の人に聞きながら寄りそっていくことを再確認しました。

☆『バリアオーバー』という聞き慣れない言葉でしたが、『バリアフリー』を当然のことと考えていた自分には新鮮に響きました。バリアありきでその先を見ろというのはおもしろいと思いました。

☆はじめてアイマスク体験をしましたが、どんなことを知らせてもらおうと歩きやすいのか、どんなガイドが安心なのかが分かって勉強になりました。

☆足の裏の感覚、空気の感覚、音の感覚ははじめての感じでした。また、ボランティアの方の現場の声をお聞きできてよかったです。

☆障害者の方の気持ちに少しはなることができたと思います。でもそれ以上にそういう方に触れて生の声をもっと聞くことで理解を深めたいと思いました。



保護者になるための「子育て相互支援」

平成23年9月27日（火）開催

「『子育て支援』とはそもそも何を指すのだろうか」と講師の問いかけから始まりました。わが国では、親の働きやすい環境をつくり、出産数が増えるように就労支援や少子化対策の面が強く、「子どもたちにとって何が幸せなのか?」「子どもたちの望んでいる支援は何なのか?」にもっと目を向けるべきだと話されました。そして、子どものためだけではなく、保護者のための子育て支援の視点も示されました。親のすべきことを代行してしまったため、親は「保護者」になりえず、親の姿を見て育つ子どもは、その姿を知らずに育ち、そのことが繰り返されるといふ指摘に、受講者は深く納得していました。

子育て広場AiAiからは、これまでの積み重ねの上にあるさまざまな子育て支援が報告されました。子育て中の当事者や、かつて育てられた子どもたちにもできるだけ運営に関わってもらおうところが特徴でした。外遊びを最大限取り入れたり、辛抱強く待つことを心がけている点にひきつけられた発表でした。

情報交換では、多様な立場から「子育て支援において大切にしたいこと」を中心に日頃の考えを活発に交わすことができました。
(講座参加者 37名)

<研修内容>

講義	「ニュージーランドのプレイセンター活動とカナダのノーバディーズパーフェクト・プロジェクトに学ぶ」
講師	久保田 力 相模女子大学学芸学部教授
事例発表	「富士見町子育て支援拠点事業受託事業『子育てひろばAiAi』運営から見てきた子育て支援」 松下 妙子 特定非営利活動法人ふじみ子育てネットワーク
情報交換	



受講者アンケートから

☆子育て支援センターで働いています。「代行からは何も生まれない」の言葉で悩みに光が射したように感じました。私も、職場の子どもたちも、そして自分の子どもも共に育ちたいと思います。

☆「30年後に親になる子のことを考えよう」という話が心に響きました。そのことを頭に描き、楽しく明るく育てたいです。

☆同世代の親が互いに学び、支え合い、親子が共に成長していくニュージーランドのプレイセンターのあり方はその点で教えられるものがありました。

☆AiAiは理想的な子育て支援だと思います。驚き、目が覚めたような気がします。本当に参考になりました。まだまだ聴きたいことがたくさんあり、視察に伺いたいです。

☆さまざまな立場・世代の方と話ができたおかげで、今後の課題が見えてきました。